

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう 第1ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0172000184-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の入居者様に寄り添いながら、要望等を聞き、心身の状況に合わせて、個別ケアできるよう、日頃から職員間で話し合っている。日々の生活が、居心地良い空間で過ごせるよう支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームふきのとう」は、平成12年の介護保険制度創設時に開設された3ユニットの事業所である。石狩湾や小樽市街が一望できる住宅地に立地しており、豊かな景観が楽しめる環境に恵まれている。利用者は近くの公園や周囲を散歩したり、共用空間の大きな窓から景色を眺めて、日々四季を味わいながら暮らしている。開設当初から地域で当り前の生活ができるように、所長をはじめ、管理者と職員は理念に沿って馴染みの人や馴染みの場所の関係を大切に個別支援に力を入れている。地域との関係では、法人合同の夏祭りには住民参加が徐々に増え地域に浸透した交流の機会になっている。近くの中学校とは文化祭を見学したり、生徒が事業所前に雪明かりを作るなど相互間の交流を継続して行っている。事業所内では職員が自主的に運営に関わる体制作りで、権利擁護、火元防災、衛生管理などの委員会の役割を担い、担当者を中心に報告会や勉強会を行っている。医療面では、かかりつけ医の医療機関を継続し、ほぼ職員が通院に同行して主治医と連携して健康を管理している。重度化時には方針を共有して看取りケアを行い、ケアを行う際に看護職員を講師に勉強会や看取り後の振り返りも行っている。職員は家族のように見送り、看取りの深い体験から温かく利用者に接して、質の高いケアを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんの生活ペースを大切にすよう、ミーティングなどで話し合っているが、「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」という事業所理念としての共有については薄いため、今後ミーティングで共有するようにする。	家庭的な環境で、当り前の生活を支援するという内容のケア理念を要所に掲示している。会議では自宅生活に近づける支援や地域住民との交流について話し合っている。職員は日々理念を意識して、その人らしい暮らしや思いを大切にケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の夏祭りや避難訓練には地域の方にも来ていただき、一緒に参加して頂いている。また、町内の敬老会にも招待され参加させて頂いている。	散歩中に近所の庭の花を見て住民と会話を交わしている。今回はボランティアの指導で利用者もよさこい踊りの輪に入って楽しむ機会になった。中学校の文化祭を見学し、生徒が事業所前で雪明かりを作るなど、双方間の交流を継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会等を通じ、認知症の方への対応や支援方法について、伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、行事の報告やヒヤリハットの報告を行い、意見交換を行っている。地域包括支援センターの方にも参加して頂き、貴重な意見をもらうこともある。	会議では防災、外部評価、食事、音楽レクなどの取り組みを報告し、意見を交換している。今後は参加できない家族の意見を得て会議に活かしたいと考えている。全家族に議事録の送付を検討したが、通信で報告しているので現状維持としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課に相談する機会は多くはないが、生活支援を受けている方もおり、色々と相談することはある。	書類提出時や介護認定手続きの代行で市役所に出かけている。生活保護担当者とは密に連絡をとり、訪問時には事例に沿って話し合っている。運営推進会議で地域包括支援センター職員から認知症カフェなどの情報も得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時や普段の業務の中において、身体拘束についての話題を出したりしながら、身体拘束をしないケアについて意識していくよう努めている。	外部研修で、アンガーマネジメント(感情コントロール)を学び、内容をミーティングで共有し対応に活かしている。身体拘束禁止行為を理解し、権利擁護委員会を中心に、拘束をしないケアに取り組み、禁止語の表をもとに言葉遣いにも注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の資料を用いて、言葉づかいや、どういったことが権利侵害に当たるのかを、権利擁護・虐待防止のコンプライアンスルールを読み、一人ひとり職員が考えるよう努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等を用いて、権利擁護について勉強する機会を設け、理解できるよう努めている。実際には後見人制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご本人、ご家族の不安などを十分に伺いながら、わかりやすく説明するように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口を設けており、重要事項説明書にも提示している。運営に関する意見や要望等はあまりないが、いつでも意見などを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。	来訪頻度の少ない家族には電話で意向などを聞いている。来訪時に家族からケアの提案で話し合うこともある。意見などは日報に記載し、詳細は各記録で参照できるようにしている。毎月の通信で全体的な事と個別の暮らしを分かり易く伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニットミーティングに事業所所長にも出来る限り参加してもらい、意見や助言をもらっている。年に数回親睦会を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	ユニット会議では、利用者対応、研修報告、各委員会からの報告や勉強会を議題にあげて意見を交換している。必要に応じて所長との個別面談や週1回の役職会議で職員の提案を検討している。管理者は業務の中で日々意見を聞き相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得での手当及び、火元責任者、衛生管理委員、権利擁護委員の役職手当等、個々のモチベーションをあげ向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する外部研修に出来るだけ参加できるよう配慮している。今年度からは介護職員初任者研修及び介護福祉士実務者研修の学資の奨学金制度を導入し、活用してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市認知症高齢者グループホーム連絡協議会に入会しており、協議会が主催する交流会等に参加し、他事業所と交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階で、アセスメントを開始し、ご本人とコミュニケーションをとり、要望や不安などを聞いている。一つ一つ丁寧な対応を心掛け、信頼関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、どのような事が困っているのかなどを伺い、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される段階でご本人・ご家族が何を必要とされているのかをアセスメントし、身体状況や精神状況をカンファレンスで職員と話し合い、介護計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に合わせながら、おしぼり畳み、洗濯畳み、新聞畳み等々のお手伝いをお願いしながら、職員が助かっているという感謝の言葉を伝えている。入居者さんも喜んで手伝って下さっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ふきのとう通信を発行し、普段の様子を知らせている。来訪時や電話などでも近況を報告している。ご家族様から、ご本人宛に雑誌を送って下さったり、嗜好品を持ってきて下さったりして頂き、協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数名の利用者様は友人や知人の来訪もある。馴染みの美容室へお連れしたり、行事でも市内の懐かし場所へお連れし、散策したりする機会を作っている。	年に数回は馴染みの方の来訪があり、事業所内で交友を温めている。希望に沿って薬局で化粧品の購入や馴染みの場所をドライブしている。裕次郎記念館閉館の懐かしい会話から記念館に出かけたり、選挙に同行するなど関心ごとに対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の生活を楽しく過ごして頂けるよう、リビングで集まってゲームをしたり、歌を歌っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族が、夏祭りや施設行事に継続して参加して下さっている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、コミュニケーションや様子観察の中で、ご本人の要望・意向を把握し、サービス提供できるよう努めている。(理美容等の外出、買い物、嗜好品の提供等)	8割ほどの方は会話が可能で、意向に沿って外出や買い物に対応している。6か月ごとにアセスメント表を更新している。今後はシートに興味嗜好の項目を加えて、変化などの情報蓄積も考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴を教えて頂いたり、ご本人とコミュニケーションをとりお話しする中で、今までの暮らし等を聞き、ミーティングで取り上げ、職員が把握しケアに繋げていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状況を把握し、一人一人の能力に合わせたケアをしている。洗濯畳み、食器拭き、新聞畳み、リネン交換などのお手伝いや歩行練習の声掛けをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来訪時や電話での連絡の際に、意向等を伺い、取り入れるように努めている。医療面では看護師に意見や指導を頂いている。月に1回のカンファレンス時にもモニタリングを行い、職員全体で話し合い、介護計画を作成している。	カンファレンスで職員の意見を収集し3か月ごとに短期目標のモニタリング・評価を行い、6か月ごとに介護計画を作成している。分かる利用者には内容を説明し、サインを得ている。日々の記録では介護計画を意識して実施内容を記載している。	詳細な介護計画を基に日々の記録を行っており、今後は短期目標に沿って支援内容の変化なども分かり易く記載したいとのことなので、その取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に一日の様子や健康状態、ケアの内容を記録し、職員全体で話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんの希望による買い物など意向を聞きながら対応している。花見ドライブ等の外出支援や、個別ケア(買い物や床屋)を実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の敬老会や中学校の文化祭に招待され、参加させて頂いている。町内のお祭りでは、神輿渡御がきて獅子舞の披露などを楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を伺い、かかりつけ医や新規医療機関で適切な医療を受けることができるよう、支援している。	かかりつけ医の受診時は概ね事業所に対応し、必要時に家族も一緒に同行している。入院後は同じ病院に変更したり、在宅で受けていた往診を継続し受けている方もいる。受診内容は「支援経過記録」の医療分を分けて、個別に管理している。	

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変などがあつた際には、看護師に状態を報告・相談し指示を受け対応している。看護師判断で受診や往診を受けている。報告忘れ等、注意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ケアマネが窓口となり、状況を確認し職員にも現状を報告している。退院が決まり次第、病院からも情報を頂き、今後の対応方法を話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には重度化した場合の対応等を説明している。現在、看取りケアをしている方はいないが、看取り介護のマニュアルがある。重度化してきた方は、ご家族の意向を伺いながら、主治医と相談のもと、今後の方針について話し合っている。	重度化対応と看取りの指針を文書で説明し、常時医療行為の対応は難しいことも利用開始時に伝えていく。主治医の判断の下で終末期には意向に沿って「看取り介護についての同意書」を交わし、看取りケアを開始している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置している。定期的に応急処置や心肺蘇生の訓練を実施している。緊急時の対応マニュアルを確認しながら、各自イメージトレーニングをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットに火元責任者をおき、火元責任者会議を行っている。責任者を中心に災害時のマニュアルを職員一同理解し、避難訓練や救命救急訓練をしている。訓練には地域の方々との協力を得ながら実施している。また、Jアラートに対する対応なども検討している。	法人事業所合同で昼夜を想定した避難訓練を実施している。自然防災マニュアル策定後に消防署の下で地震から火災発生時の訓練を行い、町内会役員は誘導後の見守りで参加している。今後は事業所内の危険個所の確認や各ケア場面での対応を職員間で話し合いたいと考えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場になって人として尊重し、敬い、言動等注意するよう努力している。	職員は丁寧に話しかけており、研修で禁止用語の使用例を勉強してプライバシーの配慮を心がけている。書類等も目につかないよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺いながら出来る限り対応するようにはしているが、全て対応できてはいない。なるべく自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人員や日々の業務に追われ、十分ではないと思われる。出来る限り、個々の生活ペースに合わせて支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室に定期的に出かけたり、化粧品をご自分で選んだり頂いている。毎日化粧をされている方もいる。また、季節に合った服を選んでいただけるよう支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好きな副食をご家族に持ってきて頂いたり、ご本人に聞き、代行して購入している。イベント時には、入居者さんにも一緒ににおにぎりを作って頂いたり、下膳等もお手伝いをお願いしている。	法人で調理したものが搬入され、主食のご飯等は職員が焚いている。利用者と職員は楽しい会話をしながら食事を共にしている。利用者はできる範囲で下膳したり、おやつ作りに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の方にはおかずを一つ一つ説明して、少しでも食べて頂いている。苦手な副食の時は、他の食べ物で代用している。水分も甘めの物で提供し、脱水予防などに取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアスポンジやガーゼを使用し、口腔内を清潔に保っている。自立している方には、歯磨きの準備をして声掛けしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分での排泄が困難な方は、時間を見ながらのパッド交換を行っている。自立されている方が失禁等をされた際も、プライドを傷つけないように気を配りながら、お腹の具合等を確認している。	水分摂取量と排泄回数の記録を付けている。夜間はトイレ誘導やポータブルトイレを利用、熟睡するためベッド上でおむつ交換をするなど個別の対応で本人の望む支援が実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、個々の排便状況を確認し、下剤の調整や水分補給を確実にして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後から入浴介助をしている。体調がすぐれない時は、翌日に入浴して頂くなど、適宜対応している。入浴中は会話が続きよう、色々声をかけている。	午後の時間帯に好みの湯加減で香りのよい入浴剤を入れた湯に順番に3名程度が入浴をしている。一人平均すると週2回の入浴回数で清潔を保っている。同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前には安心して寝て頂けるよう声掛けしている。日中も、体操やお手伝いなどをして頂き、活動していただけるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット、服薬時には、2名の職員で必ず確認している。飲み落としなどを防ぐため、直接口の中に入れて、確実に服用して頂いている。薬をセットする際には夜勤帯に一人一人の処方箋を確認しながら作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のお手伝いをお願いしている。オセロやゲーム、将棋、トランプなどを楽しんで頂いている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って買い物や水族館、記念館やサーカスなど、外出の機会を作っている。	散歩で近隣の公園まで行ったり、ドライブで朝里ダムの紅葉や平磯公園の桜、水族館、裕次郎記念館などに出かけている。通院の帰りにドライブして帰ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人をお連れし、スーパー等でご希望の物を買ってもらったり、外出が難しい方は、代行で買い物している。小遣い程度を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をかけたり、ハガキが届いたり、ご家族・知人との交流を出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は常に清潔を心掛け掃除している。廊下やリビングに季節を感じられるようディスプレイしている。	既存の建物を改造して作られたホームであり、随所に使いやすいように工夫された箇所がみられる。共有空間では居室の中心にリビングがあるため利用者は部屋から出てソファや椅子に腰かけ楽しく過ごしている。加湿器などで適温適湿に保たれ居心地のよい共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う方同士、会話を持てるようテーブルの席を配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活空間に少しでも近づけるよう考え、馴染みの物を設置したり飾ったりしている。	入居前に使っていた馴染みのものを持ち込み自分らしい居室になっている。家族の写真や位牌、お気に入りのポスターを張って安心して暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、日めくりカレンダーや時計などで、日時を意識して頂けるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう 第2ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族等と出来るだけ連絡を密にし、何かあった時等はいち早く連絡する等している。又、地域との関りでは、消防訓練や、施設行事等チラシを配ったりして参加して貰う様にしている。医療面でも往診や体調の変化等あった時は速やかに連絡し対応している。季節感等感じて貰う様に、壁にアートしたり、祝日等は今日は何の日等、その時々で分かるように説明等している。毎日が利用者にとって穏やかに過ごせる様心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000184-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成29年12月1日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	余り共有できていないが、リビングパートナーと共に、「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに、日々の生活を安心して送ってもらえるよう、ユニット会議等の時に、話し合いや確認を取り、日々の生活に反映できるようにしていく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事等ある時は、出来るだけ参加可能であれば、参加する様にしており、消防訓練等の時はチラシ配り等行い、散歩等している時は、挨拶など行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事等、地域の方が来てくれる時には、利用者の生活ぶりを見て貰う等しており、聞かれた事等、分かりやすく説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの内容や、評価への改善等報告し、より良い施設運営を心がけている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課等と連携を取り、分からない事や、連絡等ある時は助言等頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待や、身体拘束、危険行為等ない様、職員には伝えており、施錠なども時間を決めて、安全に過ごす様行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については、身体的、言葉の暴力等ない様、常に心掛けている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で職員間で話し合い、理解を深めている。後見人が付いている方は、その状況により、連絡を取る様になっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読み、各項目について説明している。分からない事等あった時は遠慮せず聞いて下さる様う話している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望について、個人的な物か施設に通じる物か、判断し、その事を参考にし、活かせる物であれば取り入れる。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて、所長やケアマネ、職員と行き意見を聞いてもらっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しでも働きやすい環境を作る様、相談助言等行っており、職員が働きやすい環境を心がけている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間の関係を保つように、コミュニケーションを取る様になっている。研修は中々参加できていない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修も中々参加できず、相互訪問も以前は行っていたが、現在は行っていない。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他施設や病院からの退院後、直接入居される事になった際、前ケアマネの情報や担当者の情報を伺い、出来るだけ利用者の意向に沿うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、又は家族の不安や希望を聞き施設で出来る事、出来ない事を伝え、少しでも要望や不安解消出来る様、通信、電話、来訪時に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者も、職員も初めてなのでお互いに環境に馴染めるよう雰囲気作りを行い、最初のプランは1か月をめぐりに作成し、足りない部分や、必要ない部分に対しては見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段より会話や表情等を観察し、出来る事出来ない事を見極めている。コミュニケーションを取り、楽しみを共有して行けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の生活振りを通信等に掲載し連絡している。来訪時にもお伝えしている。ご家族と共に支える関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通院していた病院に可能な限り継続できるよう支援している。又、知人の方が来訪された際、又、来て頂ける様務めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の生活や、性格を考え、トラブルにならない様に、職員が会話の架け橋になり、楽しんで生活して頂く。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援、出来る事は終了後(契約)も行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から見つけ、把握に努め、要望に応じられる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を元に、ミーティングや申し送りで、職員全体での把握、その後はご本人との会話からの情報を積み重ねる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態、有する力等の把握、その後の変化も察知する様心掛ける。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での変化や、情報をケアマネ、ご家族等と共有し、ミーティングでの相談、ご本人への向上へ繋げる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいてケアを行い、記録へ記入し、必要なサービスを提供出来る様実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物や美容室などの希望に対応し、ユニット行事でのお花見やドライブを計画し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会での敬老会、中学校の文化祭見学等、楽しく生活して頂ける様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族より希望を伺い、かかりつけ医とその後体調によっては、新たな医療機関を受診する様支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調により、その都度看護師に相談し、様子の報告と受診対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換等、共有し支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に変化、変動する事に関して、ご家族を始め、職員含め相談と方針は行っており、より良い支援が出来る様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2度AEDの使用訓練と救急の様々な対応、ご家族と連絡が直ぐに取れる様備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットで火元責任者を置き、年に2度避難訓練と救命救急訓練を実施、町内会の皆様も参加し、協力をお願いしている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を守りプライバシーの尊重に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の表情から、話しやすい過ごしやすい環境にし、自己決定につながる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課やペースに合わせ、心の負担とならない様、希望に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保てるお手伝いと希望に応じ、衣類の購入や、美容室への同行を行っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせ、個人の食べ物を購入し提供している。ユニット行事等で出前を取り、楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日個人の水分量、食事を記録している。嚥下状態に合わせ、食事形態で対応。栄養が充分でない方には、栄養補助剤で対応する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に合わせた、口腔ケアを行っている。義歯の方は出来るだけ回収し、汚れを落としている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に応じた対応や声掛けを行い、トイレでの排泄を目指し、記録も残している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄状況の報告と相談を看護師にしている。体操や散歩をしたり、食事面ではヨーグルト等を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週2回の入浴だが、拒否のある方や、血圧が高い方等は違う日に対応している。又、入浴中は会話を楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて休んで頂ける様、体操や運動等を工夫して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の定期薬や頓服薬が処方された時は、健康チェック表、服薬管理票に記録し、毎日の症状の変化等、看護師と相談して確認している。翌日の薬セットや服薬時も2重確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の意欲や、残存機能を維持して頂ける様、もやしの芽取り、洗濯たたみ等のお手伝いをして頂いている。又、相撲や歌番組等で、楽しんで頂ける様にしている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に合わせて、買い物に行ったり、公園に散歩に行ったり、美容室に行ったりしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を伺い、買い物代行や、施設内の自動販売機でジュースの購入に同行したり、ご本人と買物同行したりしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を伺い、電話して頂いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、汚れを見つけたら、その都度清掃している。リビングには季節に合わせてディスプレイをしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	簡単なお手伝いを職員と共に行い、コミュニケーションを図ったり、食事のテーブルやソファで気の合った方と一緒に談笑されている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や手紙等を飾ったり、ご本人の希望に合わせて、居心地良く、過ごせる様、工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人の出来る事を声掛けし、見守りながら行っている。廊下、階段、トイレ等に手すりを設置し、安全を考慮している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう 第3ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月1回の施設行事や、ユニット内での行事、年2回の消防訓練等、定期的に行っており、毎日の生活もマンネリにならない様に取り組んでいる。例えばゲーム等行ったり、歌を歌う等、気分転換を兼ね行っている。歩行状態が良い方は、散歩したり、車イスの方は座りながら筋力低下にならない様に手足を動かす等、毎日の体操は行っている。又、医療との連携を図りながら、利用者様が安定した生活が送れる様見守っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0172000184-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成29年12月1日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、職員一人一人が共有し合い、サービスのレベルアップに心がけている。又、新人職員が入った場合も、管理者より、理念についての事を話している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回行っている、全体避難訓練や、ふきのとう夏祭りにて、利用者様と地域の方々が交流し合える場を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人についてや、研修にて、覚えた内容を取り入れ、その人に対応したケア方法を理解し、その支援方法を地域の方に分かりやすく伝える事により、本事業所の力を活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービス内容や、評価への取り組み状況を報告し、話し合いを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携については、実践状況を伝え、今の実情を知って頂き、協力関係強化に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員一人一人が正しく、理解し、身体的拘束をしないケアは常に心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、身体的はもちろんの事、言葉による虐待についても見逃す事が無い様に注意している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で学んだ事についてミーティング等で、勉強会を開いて、個々のスキルアップを行い、活用出来る様支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い理解を得ている、と共にご理解得られるよう、説明等分かる様に伝えている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、利用者様が意見や要望を言いやすい場作りに努めている。又、施設内に相談窓口を設けており、相談や苦情があった場合は、運営推進会議や、社内会議にて報告し、ケアマネや管理者を中心とし、ユニット会議を行い、問題改善に努めている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、カンファレンスを設けて、意見や提案を聞く機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、資格、各種職務手当を設けて、各職員が業務について向上心を持てる様に、サービスの質の向上につなげる様に取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修等参加して、スキルアップや仕事に向上心を持って務めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、研修会等に参加して、同業者と交流して意見交換を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が出勤や帰る時等、挨拶を行い、コミュニケーションを行う事で、今、困っている事等が見えてきて、1日1日を楽しく過ごして頂ける様に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の困っている事や、不安なことを聞き、その内容を職員と共有しながら、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴や既往歴を確り把握し、利用者本人や家族、病院と話、内容を職員で共有し、話し合いをした上でケアプランを作成し、その時その時の状況で必要な支援を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自ら出来る事はお手伝いして頂き、QOLの低下を防ぎ、互いに「ありがとう」を大切にすることを築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪されたときに、現在の状況を説明すると共に、毎月発行するふきのとう通信にて、来訪が難しいご家族様に、普段の様子をお知らせし、常にご家族様と共に、利用者様を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活習慣を尊重し、馴染みある病院(担当医)との関係の継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月、ユニット行事があり、利用者同士が機会を持ち、自由時間にはTVの前のソファがある為、利用者同士と一緒に座る事で、話をしたり、孤立しない様に支援している。又、お話しが出来ない方もいるため、職員が間に入り、コミュニケーションの手伝いも行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族様とお会いする機会はあまりないが、病院等でお会いした場合は、何かあれば、相談して頂ける様に挨拶している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者様の希望を把握出来る様な、環境作りを意識し、出来る限り要望に応えられる様に努めている。また、意向の確認が難しい方については、ご本人がどのように望んでいるのか検討して対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴をもとに、出来る限り馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状況を日々職員同士で情報を共有しながら、その人らしさを引き出すケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティング時で、利用者様一人一人のモニタリング、気づきを話し合い、本人がどのようなケアを望んでいるか話、今後の計画を立てている。又、変化が見られた場合は計画書を早急に作り直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に1日の様子を書き、往診、通院等があった場合は、個別ファイルに書き、職員間で情報の共有を行い、ケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援について、その場面に柔軟な対応を取り、その人に合ったニーズを取り入れ、サービスの取り組みに生かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や、近隣の中学校の行事に参加し、他者との交流を交える等し、楽しく過ごして頂ける様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、本人のかかりつけ医、家族の希望等を聞き決めている。かかりつけ医がない場合は、本人様、ご家族を交え、かかりつけ医を決めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の訴えや、体調変化に気を付け合い、常に気づきを心がけている。小さな事でも、職員同士申し送り合い、看護師等に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時について、関係医療機関と情報交換を行い、利用者の状況を聞くと共に、入院病院に来院し、利用者本人の状況等を自分の目で見て確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度、終末期について、状況により早い段階で話し合いを行っている。又、医療関係とも連絡を取り、十分なケアを行う事をご家族に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等については、常に話し合っている。又、応急手当についても、年2回の訓練を行い、新人職員には必ず訓練に参加して頂く対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害についても常に話し合い、台風等の事前に分かる事については前より備えをしている。今は北朝鮮の事もあり、アラームが鳴った時は、窓から離れた所へ集まる様に対応している。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格について、その人らしさを尊重したケアを行い、言葉使いや行動にも気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な自己決定について、本人の訴えに対し、出来る事はその人の希望に沿っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしについて、一人一人のペースに合わせて、利用者の希望に沿って生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについても、同様に利用者様に合わせ行っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	前もって計画を立て、一人一人の好みに合わせ、ユニットにて食事会を行なっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況に合わせて、食事形態(刻み、とろみ)等で対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日状態に合わせて、口腔ケアを行い、義歯洗浄を対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況に合わせて、排泄の時間決め、声掛け等で支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便の観察を行い、看護師と相談を行い、排便調整している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況を伺い、入浴中はコミュニケーションを取り、入浴支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ、散歩、リハビリ体操にて、快眠になる様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康チェックを行い、頓服薬の時は看護師と相談を行い、支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体に合わせて、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ等支援している。			

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の能力の低下や、不穏になる利用者様が居る為、その時の状況を見て対応します。(又、イベントを強く拒否する利用者様もおられ、希望により参加されない方もおられる。)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今の所、ご家族様からお預かりしている方が居ません。(今後、利用者様がご家族よりお金をもたれる場合は、その大切さを伝えていきます。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力の低下により、難しい事もありますが、本人が希望された場合は、職員が手を貸し、やり取りが出来る様な支援をしていきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、ご家族様、お客様がいつ来訪されても良い様に、掃除を毎日行っている。季節を少しでも感じて頂ける様な飾りをしている。(飾りが毎年同じにならない様に場所を変える。新しいイメージを取り入れる等している。)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間にTVを見たり、他の利用者との会話をしして頂ける環境である。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様、利用者様の希望に沿った、家具等を使用し、利用者様が混乱されない様に物の移動は避ける環境を心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かして、出来る事は見守りで行って頂き、食器下げやおしぼり洗い、たたみをお手伝い頂いている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう

作成日：平成 29年 12月 20日

市町村受理日：平成 29年 12月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	詳細な介護計画を基に日々の記録を行っており、今後は短期目標に沿って支援内容の変化なども分かり易く記載したいとのことだったので、その取り組みにも期待したい。	生活援助計画書と介護記録が、より具体的に連動され、短期目標の達成度が分かり易くなるよう意識する。	介護記録に、支援した内容に対し変化が見られたり、いつもと違った対応があった際には、番号を記入しマーカーを引き、モニタリングの際に、具体的な変化に気付けるようにする。	今年度中
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。